**診療放射線技師の知識情報の取得・活用による病院内での役割の向上と医療への貢献**

**片桐邦彦※　名取隆　※※**

**（※）立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科**

**（※※）立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科教授**

近年、診療放射線技師の業務拡大を内容とする診療放射線技師法が改正されるなど、チーム医療推進の元でコメディカルの活用促進の仕組みも整備されつつある。病院手術室を社会ネットワーク分析し、診療放射線技師の病院内での位置を計測した先行研究（片桐、2017）によると、診療放射線技師は組織内の結節点に位置し、媒介中心性の高い職種である。にもかかわらず、病院組織内では、診療放射線技師が医師、看護師をはじめとする医療専門職の結節点の位置にいると認識している人は少なく、加えて医師と診療放射線技師の関係は依頼と受託だけで認識されており、診療放射線技師はその立場を生かし切れていないとみられ、診療放射線技師の業務拡大が大きな課題である。本稿の目的は、診療放射線技師が院外で開催された学会や研修会等で得た知識情報を獲得し、それらの情報を医師・看護師をはじめとする医療専門職に的確に伝達できているかどうかを検証することである。

本稿から得られた結論として、診療放射線技師は診療放射線技術の知識情報の取得・活用し業務拡大をしたいと考えるならば、患者の期待に応えることを念頭に置き、①積極的な知識情報の習得、②学習環境づくり、③他職種や他施設の診療放射線技師との交流、を励行すべきである。

この3点を励行することで、診療放射線技師が病院外で得た知識情報を臨床の場で活用することが可能となり、診療放射線技師の病院内での役割が向上し、医療への貢献ができる。